

「どあい」を推すならいま！

② 郷小倉地域で親しまれてきた黒沢洞合自然公園（通称…どあい）が今夏、拡張整備工事を終えて新しく生まれ変わりました。コンセプトは「里山の中に開かれた広大で開放的な、成長するビオトープ型の公園」。オープンした拡張部分には、これからどんな生き物たちが集まり、成長していくのでしょうか。平成19年に開園した既存部分も含めて、この機会にどあいの「推し」になって一緒に見守ろう。今号では、リニューアルした黒沢洞合自然公園の特徴や公園を支える皆さんの思い、公園を愛する子どもたちの声を紹介します。

紹介動画もCheck!!

新しくなった黒沢洞合自然公園の空撮映像や特徴をYouTubeの市公式チャンネルで紹介しています。

YouTubeの市公式チャンネル▶



注目② 誰もが快適な園内

新設したバイオトイレは手すりやおむつ交換台があり、車いす使用者や赤ちゃん連れも安心です。園路は舗装され、車いすやベビーカーでも園内を回遊できます。上水道や自然石のベンチのほか、東に美ヶ原、西には黒沢山を望めるビューポイントが2ヵ所！家族3世代で園内を巡ってみてはいかがでしょうか？



黒沢洞合自然公園の概要

- ・面積：1万8,601平方メートル
※拡張部分は1万2,955平方メートル
- ・開園期間：4～11月（夜間を除く）
- ・総事業費：3億703万2千円
※旧合併特例事業債2億8070万円活用

アクセスは右記2次元コードからご覧ください。



既存部分

拡張部分

注目③ 南農生の声を反映

拡張部分は南安曇農業高校の生徒の意見を取り入れて整備。その一つに、四季を感じるシンボルツリーの植栽があります。春はシダレザクラ、夏はナツツバキ（写真左）、秋はモミジをそれぞれ楽しむことができます。環境デザインコース3年生の平間恋二さん（17）は「シンボルツリーの成長が楽しみ」と期待。生徒たちは園内の案内看板も手掛けており、長尾圭治さん（18）は「手作りの看板にも注目してほしい」と呼びかけていました。



平間さん

長尾さん

注目① 多彩なビオトープ

拡張部分には4種類（草地、田んぼ、樹林、湿地）のビオトープがあります。ビオトープとは生き物が自然な状態で生息できる空間のことで、失われた自然環境の再生方法として注目されています。丸で囲んだ湿地ビオトープは、市内で珍しいタイプ。運が良ければアカハライモリなどの水生生物を観察できます。これから、それぞれの場所にはどんな生き物が集まってくるのでしょうか。そっと近づいて「推し」の生き物を見つけてみよう！

